

会議録

会議の名称	令和５年度第１回 西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和５年７月20日 午後２時から午後４時まで
開催場所	第３委員会室（田無庁舎４階）
出席者	【委員】 山谷委員、植村委員、福田委員、小早川委員、平山委員、市川委員、一方井委員、衣川委員、渡部委員、木村委員、田中委員、豊川委員 【欠席】 澤野委員、海老澤委員 【事務局】 白井部長、菱川課長、加藤ごみ減量係長、本多清掃係長、岩崎主事
議題	(1) 会長・副会長の選出 (2) 審議会の運営方法について (3) 西東京市の廃棄物処理の状況 (4) 今後のスケジュール (5) その他
会議資料の名称	資料１ 西東京市廃棄物減量等推進審議会委員名簿 資料２ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律抜粋 資料３ 西東京市廃棄物の処理及び再利用に関する条例 資料４ 西東京市廃棄物の処理及び再利用に関する条例施行規則 資料５ 西東京市市民参加条例 資料６ 西東京市市民参加条例施行規則 資料７ 西東京市廃棄物減量等推進審議会傍聴要領（案） 資料８ 西東京市の廃棄物処理の状況 資料９ 令和５年度 西東京市廃棄物減量等推進審議会のスケジュール
記録方法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録
会議内容	
（発言内容等） - 市長から各委員へ委嘱状の交付 - 市長から委員に挨拶 - 市長公務のため退席 - 各委員の自己紹介 - 事務局職員の紹介 - 推薦により山谷委員が会長に就任、会長から就任の挨拶 - 推薦により一方井委員が副会長に就任、副会長就任の挨拶 - 事務局から審議会の運営方法について説明をした。 （審議会の運営に係る決定事項） ・傍聴人の定数を５人以内とする。 ・傍聴者は、会議時刻の15分前から先着順に決定し、定員を超える時はくじ引きで決定する。 ・会議録は、田無・保谷庁舎それぞれの情報公開コーナーで閲覧できるようにする。 ・会議録の記述内容は、会議内容の要点記録とする。 ・会議開催日時等は、市報・ホームページで知らせる。 ・傍聴者には会議資料を閲覧できるようにする。 - 事務局から議題（３）西東京市の廃棄物処理の状況を説明	

(委員からの主な意見)

委員：資料8でのリデュースについてですが、1位の掛川市は令和2年度、3年度1位になっていますが、大きな差はどんなところがありますか。例えばごみ袋の金額が高いとかそういったものがあるのでしょうか。

会長：掛川市は最近有料化をしています。これは一つの要因ではあると思いますが、有料化前からごみが少なかったようです。いくつか重要な要素がありまして一つは、1人1日当たりのごみ排出量の計算式で集団回収量が入っていますが、掛川市は集団回収を地区回収に改め、奨励金を廃止したことです。

もう一つは、家庭から出る剪定枝について、行政が回収すると可燃ごみになります。剪定枝の業者に補助金を出して、市民は剪定枝業者、園芸業者の方に持って行き引き取ってもらい、再資源化のルートに乗せてごみとしてカウントしないという方法で民間ルートをうまく活用して、この2つのやり方が効いているということですね。

三つ目としてある意味これが一番重要なのですが、ごみの減量に対する競争意識があげられます。ごみ量の少ない他市を意識して減量に取り組んでいるようです。

そしてもう一つあげるとすると四つ目になりますが、掛川市では指定袋を有料化したと言いましたが、有料化する前に指定袋制度をとっています。その特徴というのは記名式なんです。名前をフルネームで書いて出してくださいということです。町内会管理、住民管理の集積場は非常に記名率が高い状況でした。そのようなところが要因ではないかと思います。

全国の中規模都市の中で、西東京市を含む多摩地域で上位10番までを占めています。ヤードスティック競争と呼んでいます。市民が他市との比較をして行政のサービスを評価するということで、行政の方もやはり他市と競争意識を持って、もっとごみを減らそうという、間接的な競争原理が市民がしっかりしていれば働きます。多摩26市とか30市町村の場合は多摩ごみ実態調査というデータ集を作成して、順位づけをすることができ、各市町で一つでも順位を上げようとして頑張っていることが全国的にも反映されています。

委員：資料8を見てみたら多摩地域がすごく多くて、23区から転入してくる方が「分別が大変です」という話はよく聞きます。例えばプラスチック容器包装類のことですがなるべく汚れないでどうやって入れようかということで、自宅でも家族とこれはどうだ、とかいまだに揉めています。

委員：リサイクル率を高めるにはごみに対する費用が高くなるとリサイクル率が高くなるというのは経済の原則だと思います。西東京市民が払っているごみ指定袋がありますが、値上げしてリサイクルに対する協力補助金などを積み、相関関係でリデュースが下がって、リサイクルが上がる、ということになるかと思います。

委員：ごみ袋の値段をもっと高くすれば、ごみを減らそうという意識が高まるというふうに思いながら資料3の指定袋の金額のところを見ましたが、私の中では、プラスチック容器包装は、資源だという扱いなのでごみには入っていないと思います。ですがプラスチックの削減は本当に急務だと思って、指定袋の金額が低いと感じています。金額が低いのであれば別に出しても良いのではと思ってしまいます。

また、リサイクルして資源化するのであれば出して、というふうに思ってしまう方も結構いるのではないかと思います。ですから、その金額を上げることで環境意識が高まるかな、と思います。

一生懸命にごみを減らす努力をしている人とそうでない人が、税金的には28億円のごみ処理経費がかかっている、この値段だとごみ袋の値段ってそんなに高くないと思います。

委員：逆に袋を負担してリサイクルで何かリターンするということもあると思います。それこそ集団回収の個人版や、セブンイレブンがペットボトル回収でポイント還元しているようなことをもっと広くしてくれるとか、例えばアメリカのカリフォルニアあたりでは空き缶をかなり高く買ってくれるのですが、ペットボトルもやっていて、ペットボトルが落ちていると誰かしらが持って行って換金するということがありそれがセットになるのだったらすごいいいかなと思います。だから、そういったことをやらずに指定袋の金額だけあげて負担だけ増えるっていうと、アメとムチじゃないですけど、その両方が合わさるとすごく良いと思います。

会長：ごみの処理にはコストがかかりますので、それを発信するということは、非常に重要なことだろうと思います。有料化はしないということは見えないところで税金により賄われているということです。ごみの減量努力をしている人もごみをたくさん出す人もいますが、ごみの出す量と全くごみの処理費の負担がリンクしていなくてこれは非常に不公平だと思います。

ごみの有料化というのはごみの処理費用をシグナルするもので、自分が出すごみの処理にはコストがかかるということについての気付きを促すという効果が非常に大きいです。ごみ袋の大きさに応じてごみにかかる費用負担が増減するので、ごみと資源物をきちんと分別することでごみの量を極力減らし、使用するごみ袋のサイズを小さくしていくことでごみ減量の意識が高まります。そういったごみの減量をする人、しない人それぞれがごみの量に応じた費用を負担することで公平になります。

ごみ袋を購入することに抵抗があるかもしれませんが、長期的に見ますとごみの量が減れば、焼却施設での処理量も減らすことができまして、焼却施設の運営費の軽減や将来的にごみ処理施設の建て替えが必要になってきますが、その時にごみの量が減っていれば、小規模な施設で対応できて建設費用も減らせることになります。そういうことで市民へメリットが還元されていくと思います。

また、委員の言われたとおり、ごみ袋の有料化は少し購入する際に気になるくらい金額の方が良くて、気にならない程度では減量の効果が出ません。多摩地域の26市では、1リットルあたり2円程度で40リットルの袋だと80円の自治体が多いです。西東京市では有料化後に指定袋の値段を下げた経緯がありまして、その際にごみの量が増えるのではないかと心配されていたのですが、値下げした当初の年は若干、増えましたが、それ以降はまたごみ量が下がっていきまして、これは、西東京市民の方々の意識が高いところではないかと思われま。

委員：今回、令和18年度まで目標値がありますが、この2、3年は新型コロナウイルス感染症の影響で目標値に対して数値が増えているようですが、このまま新型コロナウイルス感染症が収まってくればまた数値も下がってくると思われるので、そんなにごみの量が増えなくて良かったと思います。

- 会 長：これは市民の方も廃棄物減量推進員の方がいろいろと頑張ってくださったということも影響していると思います。
- また、さらに一般廃棄物処理基本計画での目標値に向けて減量が続けていかなければならないという状況ですが、順調に減量は進んでいるということが、全国的な資料からわかりまして、今後も順位を上げていっていただきたいと思います。
- 10 事務局から議題(4) 今後のスケジュールについて説明
- 11 議題(5)その他 次回の日程について